

# 札幌市議団ニュース

2011年6月28日 No.38

日本共産党市議団事務局発行  
電話 211-3221 FAX218-5124

## 議案審査特別委員会・論戦特集 ②

### <坂本議員> 子育て世帯に特化した、期限付き市営住宅の整備はやめるべき

坂本きょう子議員は、子育て世帯に特化した市営住宅を整備する問題（in 東雁来）を取り上げ、「小学校卒業までなどの期限付き入居は、『公営住宅整備・管理の手引』でも市営住宅にはなじまないと指摘されている。子育て世帯に特化した市営住宅の整備はやめるべきと思うが、どうか」と質しました。

浦屋謙住宅担当部長は、「入居期間をもけることで、より多くの世帯が入れ替わりながら入居機会を得ることができる、子育て支援型という特徴づけもできる」と強弁しました。

坂本きょう子議員はつぎに、「市営住宅に入居している方々の住み替え希望（低層階へ、広い部屋へ）は、昨年度、47/300世帯（16%）しか実現していない。希望しても入れない。この根本には、本市の住宅供給力の不足があるのではないか。今後の市営住宅の供給（新設+借上げ）をどう考えているのか」と質問しました。

浦屋謙住宅担当部長は「直営での新築予定はない。また借上げも新築ではなく中古での供給となる」と答弁しました。

坂本きょう子議員は最後に「今求められているのは、従来の新設と借上げを基本に、すべての世帯が入居できる市営住宅をどう供給していくか、安心して暮らしていける環境をどう提供していくかだ。期限付きの市営住宅整備はやめるべき」と強く指摘しました。（6/23）

### <伊藤議員> すべての避難所に備蓄物資を配置すべき

わが党が代表質問で「すべての避難場所に備蓄物資を配置すべき」と求めたのに対し、市長は「備蓄物資をすべての避難場所に配置した場合、実際に避難者数に応じた物資の回収・再搬送が繁雑になる。必ずしも効率的ではない。現在は、拠点への分散配置をしている」と答弁しました。

伊藤りち子議員はこの問題を取り上げ、「この考え方は、震災直後の想定ではなく、何日か経って、道路が復旧してから物資を回収・再搬送するという考え方のようなのだが、それでは助かる命も助からない。高齢者や病気の方、障がい者などが氷点下15度の厳しい寒さのなか、やっとの思いで地震の被害から逃れて避難所へたどりついたとき、そこに毛布も寝袋もなく凍死することがないように、すべての避難所に備蓄物資を整備すべきと思うがどうか」とたどしました。

山崎正滋危機管理対策部長は「すべての避難場所に均等に避難者が来られるとは考えにくい。だから、すべての避難所の収容能力分に見合うだけというのは果たして効率的なのか。より効率的で時間のかからない

⇒ 裏面につづく

方法を今後も検討していく」と強弁しました

**伊藤りち子議員**は「災害時避難所に行ったとき、からだを温める毛布・寝袋がなければ命は守れない。毛布・寝袋をすべての避難所に配置するために何が必要かを徹底調査し、計画を持って進めていくべきと考えるがどうか」と追及。

**長利秀則危機管理対策室長**は「ただ現在指定しているところは収容スペースがなく難しい。東日本大震災からも交通網の寸断を考えれば、拡充には務めるが、緊急輸送道路などネットワークを考慮した、在庫管理／回収・再搬送などシステムの構築など改善していく」と、あくまで分散配置に固執しました。

**伊藤りち子議員**は最後に「自然災害を防ぐことはできないが、災害が起こった時に被害を最小限に抑える最大限の対策は取ることができるし、取るべきだ。危機管理対策室が札幌市民の命を最優先に守るという姿勢で、全く何もないという避難所をなくせ！すべての避難所に備蓄物資を配備するためにしっかりと取り組んでいくべき」と強く求めました。(6/23)